

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	てあてるの芽		
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年1月7日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども一人ひとりのストレングスについて職員全員で話し合いをしている。 一人ひとりの可能性をみるとともに学習機会の提供も行っている。 生活が健全なものになるよう意欲の下支えとなる視点で支援を提供している。	下駄箱やタオル掛けなど場所ごとに顔写真をはり視覚化している。絵カードで伝達したり、スケジュールを見やすい場所に配置し、いつでも確認できるようにしている。 様々なスキルや生活意欲など丁寧な記録を行い、保護者様との情報共有を行っている。	こどもと職員、子ども同士のコミュニケーションの取り方や見通しをもった活動ができるように伝達方法として絵カードや言葉がけを行っているが、理解が難しいときや伝わらないこともあるため、工夫改善が必要である。
2	保護者会や個別懇談会を行い、1年間の事業所の活動や子どもたちの成長・気になることを伝えられる機会を設けている。	個別課題や自立を促す活動など、こどもの状況に応じて支援を行い、基本的日常生活動作の自立や成功体験の積み重ねを大切にしている。否定的な言葉をさげ、自己肯定感を育むような遊びを提供している。	こどもの不適切な行動・言動を減らせるような取り組みを色々な事例を参考にして取り組んでいきたい。
3	活動プログラムが固定化しないように工夫し、個別で行う時間、集団で行う時間、とメリハリをもったスケジュールにしている。季節の変化に興味関心がもてるような自然とのふれあい、壁面飾りなど表現する喜びを体験できる創作活動を意識している。	学校休業日の際には、普段できない遊びを行う、外食体験に行く、おでかけに行くなどを取り入れ社会経験の幅を広げるための地域交流を行っている。	子ども一人ひとりの「できること」が個々で異なっており、集団で取り組むことが難しいこともあるため個性を生かした全員で楽しめる遊びを増やしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会は開催しているが、父母の会の支援や保護者同士が交流できる機会の提供までには至っていない。	事業所を通じて保護者同士で交流する機会が極めて少ない	ペアレントトレーニングは、保護者様からの要望があり、職員の質の向上をはかるとともに応じていけるよう取り組んでいきたい。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた運営までには至っていない。	どのようなことをしていくべきか検討中	地域交流を意識した活動を考えていく。
3			